

修士論文  
2013年1月

要介護高齢者と幼児との交流活動における  
施設及び親の意識に関する研究

指導 芳賀 博 教授

国際学研究科  
老年学専攻  
207 J 6005  
浦尾 和江

## 目次

序論	1
第1章 先行研究と研究目的	1
1.1 先行研究	1
1.2 研究目的	3
第2章 研究方法	3
2.1 対象者と選定方法	3
2.2 調査機関・調査方法	4
2.3 分析方法	4
2.4 倫理的配慮	5
第3章 結果	5
3.1 グループの特性	5
3.2 施設職員及び保護者の意識の比較分析	6
3.2.1 要介護高齢者との交流が幼児に与える影響について	6
3.2.2 幼児との交流が要介護高齢者に与える影響について	8
3.2.3 交流に対する不安や心配	9
3.2.4 交流に対しての頻度や交流の内容	10
第4章 考察	12
4.1 要介護高齢者との交流が幼児に与える影響	13
4.2 幼児との交流が要介護高齢者に与える影響	13
4.3 交流に対する不安や心配	14
4.4 交流に対しての頻度や交流の内容	15
4.5 研究の利点と限界	16
第5章 結論	16
参考文献	
資料	

## 序論

近年、高齢者と子供との世代間交流は、数多く行われるようになってきた。しかし、交流活動の実際は、科学的な根拠に基づいて、吟味されて行われているとはいえない。全体的にプログラムが確立されないまま交流活動が進められている。また、プログラムを実施することによるその前提として、世代間交流を導入するうえで幼児や児童の保護者の交流活動への意識や、高齢者や幼児双方にとって想定されるリスクは何か等、押さえておかなければならないことについても明らかにされていない。認知症高齢者を多く介護する介護老人福祉施設等の場において、要介護高齢者のQOL向上の一環としての世代間交流がますます重要になってくると思われるが、幼児との交流に関する研究はほとんどされていない。科学的な根拠に基づいた交流プログラムの開発が求められている。

### 1. 研究目的

幼児の保護者及び施設職員の意識に関する調査を行い、交流が要介護高齢者及び幼児に及ぼす影響や交流に際しての期待、不安や心配ごと、期待する交流内容を探り、要介護高齢者と幼児との交流プログラム開発のための基礎資料を得ることを目的とした。

### 2. 調査対象者

K県K市に住む幼稚園児を持つ母親7名、30歳代から40歳代のグループとS県F市にある介護福祉施設の入所及通所施設の職員5名(男3女2)、年齢は30歳代から50歳代のグループとした。

### 3. 調査内容

インタビューの主な項目は、目的に合わせてQ-1 要介護高齢者との交流が幼児に与える影響、Q-2 幼児との交流が要介護高齢者に与える影響、Q-3 交流に対する不安や心配、Q-4 交流に対しての頻度や交流の内容についてグループインタビューを行った。

### 4. 調査期間：2012年11月1日～2012年12月20日

### 5. 倫理的配慮

施設ならびに保護者には、依頼文を作成し文書と口頭で本調査目的について説明し、その後承諾書への署名をもって同意を得た。

### 6. 分析方法

逐語録を作成し、「逐語記録・観察記録・分析シート」にまとめた。「重要アイテム」について類型化し、「重要カテゴリー」を抽出した。

### 7. 結果と考察

保護者および施設職員は、高齢者が幼児の成長に思いやりや優しさだけではなく躰や学びへ影響を与えるものとして期待していることが分かった。しかし、寝たきりの高齢者や認知症の高齢者との交流は、幼児に恐怖心をもたらす影響もあると考えていることが分かった。高齢者にとって幼児との交流は、孫を連想させ、楽しみや喜びといった心身の活性化へ影響をもたらすものと期待していることが分かった。寝たきりの高齢者や認知症の高齢者との交流の際に怪我と病気などの感染症への心配や認知症高齢者と接する場合の幼児への影響について不安を感じていることが分かった。親密な関係が保てるよう交流は段階的に進め、継続できる交流方法と単発で歌や遊戯を披露するよりも高齢者と幼児が共に参加できる日常的な交流内容を期待しており、定期的に年間を通した交流、近隣との交流活動の実現、安全対策、感染症対策、施設と幼稚園をつなぐ交流担当者の調整機能の必要性など意見が抽出され、交流プログラム開発のための基礎資料を得ることができたと考える。

## 参考文献

- 1) 内閣府編集:平成 24 年版高齢社会白書. 1-45, 佐伯印刷, 2012.
- 2) 厚生労働省:平成 22 年介護サービス施設・事業所調査結果の概況, 2012,  
<http://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/kaigo/service10/index.html/2012/12/1>.
- 3) 林谷啓美、本庄美香:高齢者と子供との日常交流に関する現状とあり方, 園田学園女子大学  
論文集, 46 , 69-87, 2012.
- 4) 上垣内信子、赤井美智子、立川多恵子:新座市における乳幼児と高齢者の世代間交流の現  
状とその意義:高齢者の積極的生活態度の醸成と乳幼児の発達に寄与する世代間交流の実  
態調査より, 十文字学園女子短期大学研究紀要, 27, 209-230, 1996.
- 5) 土永典明、岡崎利治,:世代間交流に関する調査研究:高齢者福祉関係施設を併設している  
保育所の側面から, 九州保健福祉大学紀要, 6:27-34, 2005.
- 6) 七木田敦、上村眞生、岡花祈一郎他:世代間交流が幼児・高齢者に及ぼす影響に関する実証  
的研究, 幼年教育研究年報, 29:65-71, 2007.
- 7) 北村光子:保育と介護福祉士との比較:対象者の生活過程その 1, 長崎短期大学紀要,  
19, 119-126, 2007
- 8) 末田芳輝、横山敏祐、三ヶ尻幸生他:相互交流における交流タイプの特徴と評価:ヒト・モ  
ノ・コトの相互関係からみた高齢者・幼児施設の複合化に関する研究(その 6), 日本建  
築学会学術講演梗概集(関東), 109-110, 2001.
- 9) 今川真治:グループホームにおける認知症高齢者の屋内徘徊行動の分析:職員の対応と屋  
内徘徊との関係, 広島大学大学院教育研究科紀要, 55, 359-366, 2006.
- 10) 下村美保、下村一彦:少子高齢社会における世代間交流の意義と課題:その②幼老合築型  
施設`みどの福祉会`のアンケート調査を通して, 山形短期大学紀要, 41, 179-193, 2009.
- 11) 北村安樹子:幼老複合施設における異世代交流の取り組み(2):通所介護施設と保育園の  
複合事例を中心に, MONTHLYLY REPORT, Life Design REPORT, 4-11, 2005.
- 12) 渡辺優子:幼児と高齢者の世代間交流の現状と問題点, 新潟青陵大学短期大学部研究報  
告, 34, 15-24, 2004.
- 13) 村上眞生、岡花祈一郎、若林紀乃、松井剛太、七木田敦:世代間交流が幼児・高齢者に及  
ぼす影響に関する実証研究, 幼年教育研究年報, 29, 65-71, 2007.
- 14) 丸山明子、安梅勅江:夜間保育サービスの今後の課題に関する研究:施設長・保育専門職  
のグループインタビューを通じて, Japanese Society Of Human Science of Health-Social
- 15) 木林身江子:高齢者ケアにおける世代間交流の現状, 静岡県立大学短期大学部研究紀要,  
19-W 号, 1-13, 2005.
- 16) 安梅勅江:ヒューマンサービスにおけるグループインタビュー法:科学的根拠に基づく質  
的研究法の展開, 医歯薬出版, 2004 .